平成28年度 清水特別支援学校 学校関係者評価書

（問）・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
・その他

（御意見を伺った方）
学識経験者、島寺町自治会長　朝日南保育所長　福授園当田事業所長、ＰＴＡ会長・副会長

（御意見）

〇教育課程・学習指導・研修
・将来を目指すため、本人に合った目標を持って、本人と保護者が一緒に支援計画を作成することは、本人や保護者も目指すところがあると分かりやすく取り組みやすい。福祉においても支援計画を作成し、モニタリングを行っている。
・保護者の回答の中で「保護者の意向と学校の意向がかみあっていない」について、かみ合っていないことが分かった時点で話し合ったり、問題だと思うことを中心に連絡帳でやり取りしたりすると良いのではないか。親の思いはいろいろある。小学部の低学年の段階ではなかなか将来を見られない。保護者が将来について考えていけるように学校が仕向けていけると良い。

〇生徒指導
・健康観察で自分の体調のことを伝えられることはとても良い。感染症対策として、手洗いやマスク着用ができることは大切である。将来に向けてできるように今後も練習してもらいたい。
・今後、家庭でもカードを使って意志表示するという取組などもあるので、今後は保護者自身も自己評価するようにしてはどうか。

〇進路指導
・Ａ型事業所が増えてきている。特色を持った事業内容を展開している。早いうちに見学に行って情報を収集し本人に合った所を見つけていくことが大事である。
・進路調査票を毎年更新して積み重ねていって進路先を明確にしていくと良い。
・進路指導について保護者も自己評価できるとよい。保護者との連携は相互のやりとりが重要である。
・高校卒業後の生活について不安がある。相談やアドバイスなどが気軽にできる仕組みがあると良い。
・保護者ＯＢの方やハローワークなどからの意見が聞ける仕組みがあると良い。

〇支援
・気になる行動に対してどのように対応すると良いか戸惑う。今後も研修会を開催してもらいたい。
・保育園にとって力になっている。長い間来ていた担当者がかわり新たな担当者になったが、回数を重ねて慣れてもらった。同行研修はとても良いシステムである。子育てファイルを使って小学校へつなげてもらい感謝している。
・外に出て行く人は一部で全員でない。校内で支える立場の人もいる。評価のやり方を変えてはどうか。

〇地域との交流
・高等部は卒業後に地域で生活することを考えての交流を増やしてほしい。
・高校生にも交流ごとにアンケートを取ると良い。
・地域のほとんどの人が学校のことを分かっていない。地元住民との交流の場がない。どうしたらよいのか。公民館にて学校紹介のパネル等掲示してもらったようだが、入館者が限られている。小中学校同様、学校だより等を回覧板で回覧したり、島寺町は70戸程なので、各戸に配布したりしてはどうか。
・地域でのつながり・支えあいが重要となってきている中、台風による災害や地震等、緊急時の避難の体応についても地域住民が協力し合えるようネットワークづくりが大切と言われているので、日頃から、地域の人達と触れ合うことが必要ではないか。
・すみれ荘は、避難訓練で清水南公民館とタイアップしている。災害持に孤立せず、支援を受けられるような体制づくりが必要である。

〇運営（多忙化解消）（人権）
・パソコンを今後も活用し、アナログでの作業を減らすことで合理性が高められると思う。
・運営に人権とあるが、人権教育には児童生徒に対する人権教育と教師の人権意識の２つがあり、表記してある文言では児童生徒への人権教育と捉えられてしまいかねないので検討してはどうか。

〇全体
・評価の観点を具体的にしてもらい、分かりやすくなっている。
・今後は、自分の気持ちを表出する方法も身に付くと良いのではないかと思う。また、意志決定支援が言われる中、自分の思いを伝えられるステップとして自分で選択できるようにしながら、本人の好きなことや得意なことを伸ばせていけると良いと思う。
・年々変化はあるが、間違いなくよくなっていると思う。こまめに意見交換をして、共通理解や協力し合うことが必要である。
・特別支援学校教員としての資質は高いと感じている。一般の人の理解が高まり、社会が変わっていくことを願う。

（学校関係者評価を踏まえた今後について）
・いただいた貴重な御意見を教職員全員で真摯に受け止め、次年度の重点目標や具体的取組に活かしたい。
・評価の方法については再考し、保護者との連携のもと、児童生徒の支援に取り組みたい。